研　究　業　績

へき地山村の学童における鼻アレルギーの調査研究（続　報）

富山県農村医学研究会　豊　田　文　一
金沢大学医療技術短期大学部　津　田　光　世

は　じ　め　に

私どもは昭和55年より石川県白峰地区における学童の耳鼻咽喉科健診を依頼され，その実施を行なってきた。この白峰地区は石川県白山山麓の手取川渓谷地帯で，その渓谷は狭く峻険で，かつては良質の白山杉を主とする林業地帯であったが，今は衰退しつゝある。住民は加賀平野やこの地に進出した中小企業の労働に従事するものが多い。また水力発電の開発のためダムが造成され，水没した部落もあり，人口も過疎化の一途を辿っている。現在５ケ村であるが，渓谷には平地がなく，稲作において古くは焼畑農業として，いわゆる出作（でづくり）を行なっていた。現在でも水田は段丘的に耕作されている所を見ることが少くない。なおこの地区小中学校は耳鼻咽喉科健診は，私どもの実施した以前には，学校保健法に基づく健診は行なわれていない。

調　査　成　績

対象は小中学校各５校で，小学校596名，中学学校325名，その成績は第１表，第２表，第３表，第４表にかかげる。

第１表　検診対象

小学校

学校＼学年	1	2	3	4	5	6	計
河内小学校	16	9	10	12	16	14	77
鳥越小学校	30	39	43	49	49	45	255
吉野谷小学校	15	18	22	20	21	13	109
尾口小学校	10	6	21	13	9	14	73
白峰小学校	10	15	14	15	16	12	82
計	81	87	110	109	111	98	596

第２表

中学校

学校＼学年	1	2	3	計
河内中学校	19	11	14	44
鳥越中学校	48	40	41	129
吉野谷中学校	18	24	18	60
尾口中学校	9	21	12	42
白峰中学校	22	15	13	50
計	116	111	98	325

第３表　耳鼻咽喉科疾患罹患状況(小学校)

学校	疾患名＼学年	鼻炎	鼻たけ	慢性副鼻腔炎	扁桃肥大	扁桃炎	アデノイド	アレルギー性鼻炎	咽頭炎	その他	罹患者数	学童数
河内	1	2		1							3	16
	2	1			1						2	9
	3	1									1	10
	4										0	12
	5										0	16
	6							1			1	14
	計	4		1	1			1			7	77
	%	5.2	1.3	1.3	1.3			1.3			9.1	
鳥越	1	2		2		1					5	30
	2	1		2				3			6	39
	3	3		1	1	1					6	43
	4	1		1	1			2			5	49
	5	3		2	1	1		2		1	10	49
	6	3			1					1	5	45
	計	13		8	4	3		7		2	37	255
	%	5.1		3.1	1.6	1.2		2.7		0.8	14.5	
吉野谷	1				1						1	15
	2					1		2			3	18
	3	4			2	2		1		1	10	22
	4	2			1			1			4	20
	5				1			2			3	21
	6							1			1	13
	計	6			5	3		7		1	22	109
	%	5.5			4.5	2.8		6.4		0.9	20.1	
尾口	1	3		1							4	10
	2										0	6
	3	2			2			1			5	21
	4							1			1	13
	5			1							1	9
	6	2			2						4	14
	計	7		2	4			2			15	73
	%	9.6		2.7	5.5			2.7			20.5	
白峰	1	3		1				1		1	6	10
	2	3		1				1			5	15
	3	1			2		1	1			5	14
	4	1						1			2	15
	5	1			1			3			5	16
	6	2			1			2			5	12
	計	11		2	4		1	9		1	28	82
	%	13.4		2.4	4.9		1.2	11.0		1.2	34.1	

第4表　(中学校)

学校	疾患名 / 学年	鼻炎	鼻たけ	慢性副鼻腔炎	扁桃肥大	扁桃炎	アデノイド	アレルギー性鼻炎	咽頭炎	その他	罹患者数	学童数
河内	1			1							1	19
	3							1			1	11
	3										0	14
	計			1				1			2	44
	%			2.3				2.3			4.6	
烏越	1	1				1				1	3	48
	2	2		1						1	4	40
	3	3		1	1			1			6	41
	計	6		2	1	1		1		2	13	129
	%	4.7		1.6	0.8	0.8		0.8		1.6	10.3	
吉野谷	1	1		1		1					3	18
	2					1					1	24
	3							2			2	18
	計	1		1		2		2			6	60
	%	1.7		1.7		3.3		3.3			10.0	
尾口	1	1									1	9
	2	1									1	21
	3				1	1					2	12
	計	2			1	1					4	42
	%	4.8			2.4	2.4					9.6	
白峰	1							1			1	22
	2	3						1		2	6	15
	3							1			1	13
	計	3						3		2	8	50
	%	6.0						6.0		4.0	16.0	

全体として罹患率をみると，小学校17.3%，中学校16.6%で，昭和58年度の小学校19.0%，中学校11.6%よりみると中学校ではやや増加し，小学校ではやや減少している。

疾患のうち鼻疾患，臨床的に鼻炎，副鼻腔炎，鼻レルギーと診断されるもののうちアレルギーの存在も否定できず，その指標の一つとして鼻分泌物の好酸球の検索を行った。このためにエオジノステン（トリヰ）を用いて鏡検した。その判定は58年と同様(＃)(＋)は陽性，(±)(－)は陰性とした。その成績を第5表に示す。

その結果は，陽性率は小学校で56.5%，中学校で36.7%であった。なお58年度は小学校は50.7%，中学校は36.4%であり，本年度小学校では高率，中学校では，ほとんど同率を示した。

第5表　鼻汁分泌液中の好酸球検索成績(春)

小学校 N＝69	＃	23	(33.3)
	＋	16	(23.2)
	±	13	(18.9)
	－	17	(24.6)
中学校 N＝30	＃	9	(30.0)
	＋	2	(6.7)
	±	6	(20.0)
	－	13	(43.3)

総　　括

私どもは，昭和55年以来，白峰地区の学童の耳鼻咽喉科検診を実施し，58年よりとくに鼻疾患に重点をおき観察を行なった。この地域はへき地にて交通不便にして，耳鼻咽喉科医の診療を受けるため最短4km，遠くは20kmの距離にあり，たとえ健診にて診断指示をしたとはいえ，その機会に恵れず放置することが多い。ことにアレルギー性と疑われるものは，その要因を追求する必要がある。その要因について種々あるかも知れないが，地域環境によるものが多いのではないかと疑われる。とくに花粉症との関連である。それで，58，59年には鼻疾患のあるものに秋にも健診を行なってみた。とくに好酸球の検索も施行した。59年度の成績を第6表に示す。時季的には春5月，秋11月に行なった。健診したもの小学校55名，69名中55名になお鼻疾患があったが，14名は異常がなかった。中学校では30名中17名は鼻疾患なお存在し13名は異常はなかった。すなわち春期に比較して小学校で20.3%，中学校では43.3%は正常にもどっていた。

なお鼻疾患を有するものの鼻分泌物の好酸球の検出を行なったところ，その陽性率小学校20.0%，中学校23.5%であった。(第6表)

この陽性率を春季と比較すると小学校56.5

第6表　鼻汁分泌液中の好酸球検索成績(秋)

小学校 N＝55	＃	6	(10.9)
	＋	5	(9.1)
	±	4	(7.3)
	－	40	(72.7)
中学校 N＝17	＃	1	(5.9)
	＋	3	(17.6)
	±	0	(0)
	－	13	(76.5)

(　)は%

%であり，今回は20.0%と激減し，中学校は36.7%が23.5%とこれもまた減少が著るしい。

この事実，鼻疾患の減少，好酸球出現率の激減は，春と秋との地域環境の相違，とくに空中より飛来する花粉との関連を想起せざるをえない。このため60年度に健診の機会があれば，アレルゲンテストを実施したいと思っている。

む　す　び

私どもは，昭和59年度石川県白峰地区において，小中学校の耳鼻咽喉科検診を実施し，とくに鼻疾患に重点をおき調査したが，その罹患率は58年度と著しい変化はなかった。また鼻アレルギーの指標として好酸球の検索を行ない，その陽性率をみると58年よりやや増加していた。

また秋季に再び鼻疾患について調査したところ，その罹患率に著しい減少を認めた。さらにアレルギーの指標として好酸球の陽性率について検索を行なったが，これも著しい減少が認められた。

このことより，当該地域の環境因子，とくに春季に飛来する花粉との関連性が，大きな意義を有するものではなかろうかと考え，その検討を進めたいと考えている。

引　用　文　献

豊田文一，津田光世：学童における鼻アレルギーの調査研究　富農医誌第15巻　昭和59年